



介護実習生の受け入れから学ぶこと ～後継者の育成～



シヤンティでは、介護福祉士養成校からの実習生の受け入れを行っています。

今回は5月9日～6月9日までの1か月間、杉森高等学校福祉科より2名の学生（3年生）が施設実習に入りました。介護福祉士は、高齢化社会を支える専門職として、専門的知識・技術を身につけ資質の向上に努めなければなりません。受け入れ施設としても、“後継者の育成”という重要な役割を果たせるように、実習指導者を中心に、共に学び合える場の実現に努めています。



未来の介護福祉士に期待します！
国家試験での資格取得目指して頑張れ！

「24日間の実習」

杉森高等学校福祉科 3年 吉崎 遥伽

実習前は、不安で胸がいっぱいでした。しかし実習が始まると、2年生の実習の際入所されていた利用者の方が私のことを覚えて下さっていて「またよろしくね」と言われた時、とてもうれしく「1か月間頑張ろう」と身を引き締めることができました。1週目は見学、2週目は利用者様のアセスメント、次はケアプランの立案から実践と、利用者様の生活に寄り添いながら、観察と介護実践を行いました。実習中、色々な失敗もりましたが、職員の方からのアドバイスから学んで実践に活かすことができました。認知症の方の大声などで戸惑うこともありましたが、気持ちを切りかえて対応でき、少し成長できたと思います。またレクリエーション等で利用者様が笑顔になると私もうれしくなり、やりがいを感じました。今回の実習で習得した知識、技術、コミュニケーション力を活かして将来、皆さまに信頼される立派な介護福祉士になります。

懐かしのメロディー 心に届け♡ ～音楽療法～



6月24日 3階療養棟では、ボランティアによる“懐かしのメロディー音楽祭”が開催されました。

ギター・ベース・コントラバス・サクソ・ピアノの生バンドで、青い山脈～リンゴの唄～影を慕いて～と利用者の皆さんの青春時代のメロディーが演奏されました。音楽は心を落ち着かせたり、脳を刺激し活性化させるなど認知症の利用者への音楽療法として用いられることもあります。

昔の記憶を思い起こしながら、歌詞を口ずさみ、心豊かに素敵な時間を過ごすことができました。

高齢者の脱水症状に注意 ～こまめな水分補給を～



高齢者は、若い人に比べ身体の水分量が少なく、また喉が渇いても自分ではなかなか気づきにくく、自覚したときには、往々にしてかなり脱水症状が進んだ状態になっています。さらに物を飲み込む力が弱り、食欲も落ちると、水分を取る量が減ってしまいます。特に夏は要注意です。汗をかいて新陳代謝が上がり、水分を取っていても脱水症状を起こしやすくなるからです。熱が出たり、吐いたりした後も、脱水症状になりやすいので注意して下さい。

高齢者の脱水症状の観察ポイント



- ①食事・水分の摂取量が減っている
- ②元気がない
- ③唇や口の中が乾いている
- ④皮膚の乾燥が目立つ
- ⑤熱がある
- ⑥おしっこの量が減る
- ⑦吐き気やおう吐がある
- ⑧下痢・便秘



施設見学及び通所リハビリ体験利用は、随時受付けております！